

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	同志社女子大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ドウシシャジョシダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F126310107573
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	京都府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	Internship II / インターンシップ II
	学部・研究科等名	学芸学部国際教養学科
	担当教職員名・役職	佐伯林規江:教授
	受講者数実績年度	令和5年度
	受講者数※キャリア形成支援活動参加者数	2
	受入企業等数	1
	受入企業等名	同志社国際学院
	産学協議会の整理上の類型	4.タイプ3 (専門活用型インターンシップ)
キャリア形成支援活動の分類	7.高学年(大学3年次~4年次程度)又は修士課程学生を対象としたキャリア形成支援活動	
上記以外のキャリア形成支援活動の分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該キャリア形成支援活動は、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	3.その他
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	学生は初等部におけるバイリンガル教育の実習補助を担当する。
	1-3.上記回答内容に関する詳細	具体的には、指導教員の授業の準備補助、授業中の児童への個別指導(例、理解できない児童への補助指導)、担任の事務補助を担当する。また、12年制のインターナショナルスクールである国際部との共同の授業、学校行事、放課後活動にも積極的に参加し、児童が交流しやすいように補助活動を行う。
要素②	2-1.当該キャリア形成支援活動を正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、当該取組の実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するキャリア形成支援活動の内容	2.当該キャリア形成支援活動は、キャリア教育科目として実施している
		6.当該キャリア形成支援活動は、選択科目として実施している
		9.その他
	2-2.「9.その他」で実施しているキャリア形成支援活動の内容	事前指導は授業期間中に実施し、実習および事後指導は休業期間中に実施している。
	2-3.当該キャリア形成支援活動を実施する年次	大学 学部3年
2-4.当該キャリア形成支援活動で付与される単位数	大学 2単位	
2-5.上記回答内容に関する詳細	学部3年次生を対象に、キャリアデザイン科目の1科目(2単位)として開講している。学部学科の専門分野の学びが社会でどのように実践されているかを2週間程度体験(2月)し学ぶ科目である。専任教員が実習先と共同で実習内容を調整し、事前事後指導にもかかわる。	

項目	確認事項	届出内容
要素③	3-1.インターンシップ等の就業体験の実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、キャリア形成支援活動の教育的効果が発揮されるよう就業体験実施期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップ等の就業体験における成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのキャリア形成支援活動の実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ等の就業体験実施期間中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	事前指導は7回実施している。授業内容は次のとおり。 オリエンテーション及びインターンシップの心構え（1週目）、International school及びImmersion educationの特徴、探求の単元（Unit of Inquiry）（2週目）、学習指導要領と小学校教育（3週目）、小学校における英語教育（4週目）、小学生の心理（5週目）、これまでのインターンシップ生の振り返りから学ぶ、質疑応答（6週目）、同志社国際学院における一日及び教員としての心構え（同志社国際学院訪問もしくはオンラインによる面談、質疑応答）（7週目）。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	実習を通した学びについて担当者及び国際教養学科の1年次生及び次期インターンシップ生にプレゼンテーションする。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	指導教員が実習期間中に実習先を訪問する。事前指導における実習先の訪問の際にも同行する。
要素④	4-1.キャリア形成支援活動の教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をキャリア形成支援活動の実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	事前学習として実習先の視察及び文献調査も含む研究を実施しレポートとプレゼンテーションによって理解度を計測。実習中は毎日の実習簿により活動の可視化と振り返りを実施、事後は事後レポート、Can-doの検証とプレゼンテーションによる報告と振り返りを実施する。

項目	確認事項	届出内容
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のキャリア形成支援活動の実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合)	事前指導および事後指導とは別に、2月に連続した9日間の実習を実施している。
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	同志社国際学院において9日間の実習に参加し、同志社国際学院にて実施されている日英バイリンガル教育指導を教員の立場から体験する。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、就業体験実施期間中の学生に対する評価を実施している
		6.企業と協働して、P D C Aを実施している
6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容		
6-3.上記回答内容に関する詳細	事前学習として実習先を訪問し、実習に臨む心構えを準備させている。実習中は、実習簿により、受け入れ先も毎日学生の取り組みを確認および評価している。	
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://kyomu-web.dwc.doshisha.ac.jp/cam3/slbssbdr.do?value(risyunen)=2023&value(semekikn)=1&value(kougicd)=554500&value(crclumcd)=9999999999
問い合わせ先	大学等名	同志社女子大学
	担当部署名	学芸学部・文学研究科事務室（国際教養学科）
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	0774-65-8602
	メールアドレス	dis-t@dwc.doshisha.ac.jp